

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 9月 6日更新

事務事業名		市債利子管理事務				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康			所属部	総務部	課長名	吉村 幸一
	施策	3	財政の健全化			所属課	財政課	担当者名	松岡 綾
	施策の柱	13	財政事務の適正な執行			所属班	財政班	(内線)	1244
予算科目	会計一般	款12	項1	目2	事業連番11116	根拠法令	地方自治法第230条		成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : ⑨
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市債元金管理事務と一緒に事務だったが、市債管理上、元金と利子を明確にするために事務事業を分けたため、利子管理事務として独立し、平成22年度から事務を開始している。市債から発生する利子の償還を遅滞なく行う事務である。
【業務の流れ】	借入先から発行される起債償還表を市財務システムに確実に入力し、償還計画表を作成する。元利償還を正確に遅滞なく行う。
【主な予算費目】	償還金利及び割引料 (利子償還金)
【意見や要望】	特に聞いていない

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)	平成28年度定期償還にかかる償還を行う。 平成28年度利子償還額(住宅新築資金含む) 125,656千円	29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 前年度と同様 平成29年度定期償還にかかる償還を行う。 平成29年度利子償還額(住宅新築資金含む) 119,560千円
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 千円	予算の主な増減の理由
→ ア: 公債費(一般会計・元金及び利子の合計)	→ イ:	地方債の償還利率見直しにより、利子支払い額が減ることによる減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	市債の利子	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
		→ ア: 市債発行額(一般会計・予定は財政計画) 千円
		→ イ: 公債費(一般会計・利子のみ) 千円
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	償還する	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
		→ ア: 償還した額/償還すべき額 %
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト全体計画 ~ 年度
地方債残高を適正に管理するための成果指標として設定した。利子の償還額は、起債償還表に基づき決定及び予算化すべきものであるため、100%としている。		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	29年度目標(当初予算)	30年度予定	31年度見込	32年度見込	
① 活動指標	ア	千円	1,700,887	1,523,786	1,615,665	1,603,104	1,718,395	1,804,714	1,930,892	2,018,000	
	イ										
② 対象指標	ア	千円	1,495,411	1,410,372	1,878,000	1,938,331	2,760,000	1,485,000	2,551,000	2,744,000	
	イ	千円	160,947	142,623	141,452	125,656	136,285	133,994	131,202	131,202	
③ 成果指標	ア	%	100	100	100	100	100	100	100	100	
	イ										
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	一般財源	千円	160,249	142,623	141,452	125,657	119,560	108,324	95,085	95,085
		(A) 事業費計	千円	160,249	142,623	141,452	125,657	119,560	108,324	95,085	95,085
		(A)のうち指定経費	千円	160,249	142,623	141,452	125,657	119,560	108,324	95,085	95,085
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	3	3	2	4	2	2	2	2
延べ業務時間	時間	438	350	400	460	400	400	400	400		
(B) 人件費計	千円	1,744	1,299	1,593	0	1,593	1,593	1,593	1,593		
トータルコスト(A)+(B)	千円	161,993	143,922	143,045	125,657	121,153	109,917	96,678	96,678		

事務事業名	市債利子管理事務	所属部	総務部	所属課	財政課
-------	----------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 今年度繰上償還はなく定期償還のみであり、償還額は把握できている。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 期限毎に定められた金額を償還するため、成果の向上は見込めない。現状を維持する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は利子の償還額である。資金を借り入れる時点で利子の償還額や、償還回数が決まるので削減余地はない。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 期限に定められた額を償還するために、最小の事務で行っているため削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 期限に定められた額を償還する事務であり、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 市債の利子の償還であることから、他への移行はできない。

3 評価結果の総括 (CHECK)

事故なく、期限までに適正に償還出来た。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策